

令和元年 9月

澤田真由美 学位論文審査要旨

主 査 藤 原 義 之
副主査 梅 北 善 久
同 原 田 省

主論文

Serum vascular endothelial growth factor A and vascular endothelial growth factor receptor 2 as prognostic biomarkers for uterine cervical cancer

(子宮頸癌の予後バイオマーカーとしての血清血管内皮増殖因子Aと血管内皮増殖因子受容体2)

(著者：澤田真由美、大石徹郎、小松宏彰、佐藤慎也、千酌潤、野中道子、工藤明子、小作大賢、原田省)

令和元年 International Journal of Clinical Oncology 掲載予定

参考論文

1. Serum vascular endothelial growth factor-A as a prognostic biomarker for epithelial ovarian cancer

(上皮性卵巣癌に対する予後バイオマーカーとしての血清血管内皮増殖因子A)

(著者：小松宏彰、大石徹郎、板持広明、島田宗昭、佐藤慎也、千酌潤、佐藤誠也、野中道子、澤田真由美、若原誠、梅北善久、原田省)

平成29年 International Journal of Gynecological Cancer 27巻 1325頁～1332頁

2. Significance of high-risk Human papillomavirus testing for atypical glandular cells on cervical cytology

(子宮頸部細胞診における異型腺細胞に対するハイリスクヒトパピローマウイルス検査の有用性)

(著者：小松宏彰、大石徹郎、小作大賢、澤田真由美、工藤明子、野中道子、千酌潤、佐藤慎也、原田省)

平成30年 Acta Cytologica 62巻 405頁～410頁

審査結果の要旨

本研究は、子宮頸癌患者血清を用いて、血清中の血管新生因子およびその受容体 (VEGF-A、VEGF-C、VEGFR-1、VEGFR-2) の濃度をELISA法により測定し、臨床病理学的因子および予後の関連を検討したものである。その結果、血清VEGF-AおよびVEGFR-2の高濃度群は有意に予後不良であることが示され、多変量解析の結果、骨盤リンパ節転移陽性に加え、血清VEGF-A濃度および血清VEGFR-2濃度が独立予後因子となることが判明した。

本論文の内容は、新知見に富むものであり、その成果は婦人科腫瘍研究に貢献するとともに、明らかに学術水準を高めたものと認める。